

## ダラスのワーキング女子ヘエールを！ JCWのマンスリーメッセージ

### 平和ボケしてました

数か月前に安全対策に関する記事を書きました。覚えていますか？今月は警告の意味も含めて、最近私が実際に被害にあった件をお話したいと思います。結論から言いますと、お財布を丸ごと盗まれました。クレジットカードや銀行のATMカードを停止したり、運転免許証の再発行を申請したり。今月はそのドタバタ劇のお話です。

まずその泥棒は一体どうやって私の財布を手に入れたのか？これが怖い。なんとその人は堂々と真つ風間に私の職場に侵入してきたのです。事件当日、弊社では社員全員が参加する会議が行われていました。もちろん社員は皆会議室に行っています。そもそも私の職場は社員バジがないと建物に入れないので、基本的に「オフィスにいる人＝社員」なはず。なので私は、まさか社員以外の人が建物に侵入して盗盗なんてないだろうと思っていました。ある意味平和ボケしていたんですね。

その日は、自分のハンドバックを机の上に置いたまま会議に参加してました。会議が終わって20分ほど経った頃、突然クレジットカード会社から「怪しいカード使用履歴が認められました。これはあなた自身ですか？」というメッセージがスマホに。え、一体どんな使用履歴？と思ってチェックするとびっくり！全く心当たりがないのです。これはおかしいと思い、カード会社に電話しようとハンドバックを開けると…ない！ない！財布がない！兎事に財布だけがすっぽり盗られていました。周囲に聞いて回ると同僚も財布がないとパニック。そう、私達は安全であるはずの社内で盗難被害にあっってしまったのです。

その後は力オスでした。まず自分を落ち着かせ、財布にどんなカードが入っていたかの記憶を引っ張り出す作業。その後カード会社や銀行に電話してカードの停止と再発行を依頼。その間にも警察や夫に連絡したりと、その日の午後は仕事で

ころではありませんでした。財布の中にはカード以外にも、娘の写真などお金では買えない大切なものが入っていました。そして娘の米国パスポートカードも入っていたんです。パスポートカードってご存じですか？アメリカでは、私達がイメージする冊子状のパスポートとは別に、運転免許証のような「パスワードカード」なるものも申請できるんです。もちろん日本への帰国時などは通常のパスポートを持っていりますが、日々の生活で身分証明書が必要な時にカードは便利です。毎日子供のパスポートを持ち歩くのは心配ですが、カードなら携帯も楽です。そんな便利な子供のパスポートカードですが、なんと紛失した時はオンラインでは停止申請ができないとのこと。結局盗難被害の記入用紙を印刷し、署名して郵送です。何ともアナログな。おかげで勉強になりました。今回のように社内で起きた盗難の際、何か会社側がサポートしてくれるのかと思いきや、会社の保険は社内の備品等が盗まれた場合のみ対応で、従業員の私物（お金も含む）等の盗難は代償できないとのこと。ガーン。高価なものは会社には持っていない。ガーン。鍵のかかる個人ロッカーや机の引き出しに入れておくべきですね。

次に面倒だったのが私の運転免許証。たまたま私はアメリカの免許に加えて国際運転免許証も持っていました。とりあえずこれで運転はＯＫかと思ったのですが、国際免許だけではアメリカの運転免許証としては無効とのこと。免許を再発行してもらうには、オンラインで予約して免許センターまで行かなければいけません。でもネットで調べると予約がもう数週先まで埋まっている！そんな長い期間免許なしでは困ります。苦肉の策で、免許センターが開く朝8時にアポなしで直接出向いて担当者で直談判し、なんとか仮免許をもらうことができました。そうそう、免許と言えはもう1点。実はアメリカの免許証って、家の住所も書いてあるんです。自宅がバテて犯人が我が家に盗盗に来たらどうするんだと夫は心配していました。警察曰く、犯人は手早くお金は盗るけれど、盗盗や強盗行為は足がつくのでおそろく避けるだろうとのこと。そつだといいたくありません。

今回の事件を踏まえて、私が取った今

後の犯罪対策案をいくつかご紹介します。まずはクレジットカードのロック。これは円やドルなどクレジットカードを閲覧できるサイトで行えます。クレジットカードをロックすると、誰かが私になりすましてクレジットカードを新規開設しようとするともまず私に連絡が来るので、その時点で個人情報盗難を防げるはず。あとはその探知機を財布や車の鍵、車などにつけることです。今はキーホルダー並みに小さな探知機がいっぱいあるんですね。スパイ映画みたい！と思う私は歳がばれてしまっかな。なぜ車に装着？と思うかもしれませんが、車がまるごと盗まれたケースは知り合いや同僚にも数人います。備えあれば憂いなしですね。

日本領事館と日本大使館のホームページを見たところ、在アメリカ合衆国日本国大使館（領事班）が作成した安全の手引き（防犯対策）を見つめました。それによると、まず安全に対する基本的な心構えは、自分と家族の安全は自分自身で守ることです。そして行動の三原則は、目立たない、行動パターン化を避ける、そして用心を怠らない、です。まずは住居の安全対策。これは基本中の基本ですね。住居選びは安全性を優先しましょう。また、現地社会に溶け込めるように努め、近所の方々と情報交換をするなどして、常に治安情報を収集するよう心がけましょう。私は今回の盗難被害を通じて、普段は安全と思われるような場所でもとんでもないことになる実感しました。ただ今回は同僚のアメリカ人達でさえもびっくりしていたので、正直どこまでやれば未然に防げたのか…。日本は銃もないし、平和ボケしてもおかしくない（と私は思う）けど、アメリカで平和ボケして被害にあった私はやり切れません。でもまあ暴力を振るわれたり銃の乱射にあたりということではなかったのがよかった。そして、すぐ盗難に気付いてカードのサービスを停止できたのでよかった。そう思うしありません。この記事を読んでいる皆様も、普段安全と思っている地域でもくれぐれも気を抜かないで下さいね。

#### プロフィール

JCW(Japanese Career Women)

2008年に発足した、ダラスに本拠地を置くNPO法人。ダラス、そしてアメリカ・日本・海外で働く日本人女性やワーキングマザー、学生達を応援し、ネットワークの場を提供するため、毎月様々なイベントを主催している。

メールアドレス: [ajcwwomen@gmail.com](mailto:ajcwwomen@gmail.com)  
ウェブサイト: [ajcw-shines.org](http://ajcw-shines.org)